

(特非) ニッポンバラタナゴ高安研究会

大阪産ニッポンバラタナゴ個体群を 保全するための自然再生活動

ニッポンバラタナゴの個体数	65,000 尾
ドブガイの個体数	6,000 個体
活動の全体目標に対する達成度	60%



ドビ流し前のニッポンバラタナゴ採集

◆成果と工夫したポイント

- 成果** 自然再生活動で採集したニッポンバラタナゴは、約 65,000 尾であった。また、和綿は合計約 16kg 収穫できた。キントイ米の 300kg を商品化した。
- 工夫** 溜池の自然再生するために、伝統的な“ドビ流し”を行うとともに、腐葉土を含む山土とフルボ酸を投入した。

課題

絶滅危惧種のニッポンバラタナゴを保護するために、ため池の伝統的な浄化方法“ドビ流し”を実施し、休耕地を利用したモデル農地で無農薬有機栽培の和綿づくりを実施する。

活動内容

高安自然再生協議会を4回と、シンポジウム及び現地調査団との会談で、高安自然再生活動の全体構想が完成した。その構想に従って、ふれあい池、清水池、久宝寺緑地の心字池で“ドビ流し”を実施した。採集したドブガイの合計が約 6,000 個体、ニッポンバラタナ



ふれあい池のドビ流し終了

ゴは約 65,000 尾であった。また、里地の自然再生において、無農薬有機栽培で、モデル農地で和綿を合計約 16kg 収穫できた。

今後の課題

地場産業である花卉栽培と稲作を、伝統工芸である河内木綿の和綿づくりと、保護池の水を利用したキントイ（ニッポンバラタナゴ）米のブランド化を行うことで、保護池の伝統的な管理方法“ドビ流し”を継承する。